

VR等の映像技術を活用した医療機器「mediVRカグラ」で、“自分らしい”からだ暮らしを取り戻す

株式会社mediVRは、歩行障害、認知機能の改善を第一義に医療機器「mediVRカグラ」を開発・販売している。mediVRカグラは、仮想空間上の狙った位置に手を伸ばす動作を繰り返すことで、ゲーム感覚で楽しみながら、身体・認知機能を鍛えることができる。大学や病院、高齢者福祉施設に導入され、脳梗塞、高次機能障害、認知症、股関節疾患、慢性疼痛など、幅広い疾患のリハビリに使われている。その圧倒的な治療効果に基づき目標達成時のみ課金される成果報酬型リハビリセンターも開設。

◆ VR等の映像技術を活用した医療機器「mediVRカグラ」

▶▶▶ 有効性の高いリハビリが可能

従来、歩行障害にアプローチするには、①姿勢バランス制御、②二重課題型の認知機能を向上させる必要があったが、現場ではこれらの定量化ができておらず、最適な運動目標が示せずにはいたが、mediVRカグラではVR技術を用いることで、①・②の定量化が実現。これにより、従来のリハビリでは改善できなかった患者が、数分・数日で、患者一人でも車椅子に乗り降りできるようになるなどの大きな改善効果をあげている。

たとえば自分の目の前にゆっくり落ちてくるものがあると、人は思わず手を伸ばしてしまうもの。そうした行動科学の知見をもとに開発しているため、言葉による指示が必要なく、認知機能が落ちた患者でも言葉による指示が不要。

2018年にはジャパンヘルスケアビジネスコンテストで最優秀賞を受賞。J-Startupにも選出された。

▶▶▶ 自力で座ることすらままならなかった患者が卒業式で杖歩行を披露

11歳の脳性麻痺の男の子が、1人で座ることすらままならなかった状態であったが、1回40分、週5回、33日のリハビリで、杖歩行が可能になった事例も。男の子は卒業式で杖歩行を披露できるまでとなった。

事例は医学論文総説等で紹介され、特許取得の明細中に臨床データを多数報告するなど、医師である原社長は学術的な活動にも力を入れている。

▶▶▶ 業界初「成果報酬型リハ施設」を自社で開設

「お金と時間を費やしても変わらなかったら」という患者の不安に応えるため、リハビリ業界で初めて、達成した分だけ報酬を得る「成果報酬型」の料金体系を導入。

2022年現在、東京・大阪の2拠点「mediVRリハビリセンター」でサービスを提供している。



リハビリ中の様子



ゲーム感覚で楽しめるmediVR

【企業概要】

企業名：株式会社mediVR

代表者：代表取締役社長 原 正彦

所在地：大阪府豊中市寺内2丁目4番1号 緑地駅ビル3階

URL：<https://www.medivr.jp/>

問合せ先ページ：<https://www.medivr.jp/contact/>